

(別紙)

活用例

〔例1〕 補助教材を使った小ワーク ～投票用紙の秘密と選挙クイズ～

所要時間：約 10 分

時間	学習の流れ		補足・ポイント
1分	導入	補助教材を一人1枚配付 趣旨説明。	
2分 ～ 3分	投票用紙を知る 3～4ページ 参照	投票用紙が紙でなく合成樹脂(プラスチック)でできていること及びその理由を説明。	生徒に投票用紙を自由に触ってもらう。 →投票用紙を切り離し、各自で折ってみる。 →手で引っ張って強度を体感する。
1分	投票率について 5～6ページ 参照	投票率が低い現状と問題点について説明。	
4分 ～ 5分	選挙クイズ 7～8ページ 参照	生徒にクイズに取り組みせ(1～2分)、教員が答えと解説を発表する。	時間がない場合、教員が1題ずつ問題を読み、答えを発表しながら進める。
1分	総括	教員によるまとめ。 (例) 選挙は政治に参加する重要な手段の一つ。 誰かに任せるのではなく、積極的に選挙を通じて、日本や地域の課題について調べ、考え、自分なりに判断し、政治に参加していくことは、権利であり、国家・社会の形成者としての責務ともいえるもの。	最後に、補助教材は持ち帰ることも可能だが、配付した投票用紙は実際の選挙では使えないこと及び実際の投票所に持ち込んではならないことを説明。

〔例2〕 補助教材を使った小ワーク ～グループディスカッションを含めて～

所要時間：約 20 分

時間	学習の流れ		補足・ポイント
1分 ～ 2分	導入	補助教材を一人1枚配付 趣旨説明。	
2分 ～ 3分	投票用紙を知る <u>3～4ページ</u> <u>参照</u>	投票用紙が紙でなく合成樹脂（プラスチック）でできていること及びその理由を説明。	生徒に投票用紙を自由に触ってもらおう。 →投票用紙を切り離し、各自で折ってみる。 →手で引っ張って強度を体感する。
10分	考えてみよう （グループディスカッション） <u>5～6ページ</u> <u>参照</u>	4人程度のグループに分かれて、若者の投票率が低い理由と問題点を話し合う。 話し合った結果を発表する。 教員から若者が投票に行かない理由を、アンケート調査の結果から紹介するとともに、若者の投票率が低いことによる政治への影響を説明する。	議論が進みにくい場合は、以下のヒントを提供する ・投票するに当たって障害となることにはどんなことがあるだろう？ ・若い有権者の投票率が低いと、どのような政治が行われる可能性があるだろう？
4分 ～ 5分	選挙クイズ <u>7～8ページ</u> <u>参照</u>	生徒にクイズに取り組みせ（1～2分）、教員が答えと解説を発表する。	時間がない場合、教員が1題ずつ問題を読み、答えを発表しながら進める。
1分	総括	教員によるまとめ。 （例） 選挙は政治に参加する重要な手段の一つ。 誰かに任せるのではなく、積極的に選挙を通じて、日本や地域の課題について調べ、考え、自分なりに判断し、政治に参加していくことは、権利であり、国家・社会の形成者としての責務ともいえるもの。	最後に、補助教材は持ち帰ることも可能だが、配付した投票用紙は実際の選挙では使えないこと及び実際の投票所に持ち込んではならないことを説明。

〔例3〕 補助教材を使って模擬選挙を行う

※ここでは、架空の市長選挙による模擬選挙を想定しています。

※補助教材以外に、架空の市長選挙の選挙公報及び投票箱等をあらかじめ準備しておく必要があります。

所要時間：約 50 分

時間	学習の流れ		補足・ポイント
1分 ～ 2分	導入	補助教材を一人1枚配付 趣旨説明。	
2分 ～ 3分	投票用紙を知る <u>3～4ページ</u> <u>参照</u>	投票用紙が紙でなく合成樹脂（プラスチック）でできていること及びその理由を説明。	生徒に投票用紙を自由に触ってもらう。 →投票用紙を切り離し、各自で折ってみる。 →手で引っ張って強度を体感する。
10分	考えてみよう （グループディスカッション） <u>5～6ページ</u> <u>参照</u>	4人程度のグループに分かれて、若者の投票率が低い理由と問題点を話し合う。 話し合った結果を発表する。 教員から若者が投票に行かない理由を、アンケート調査の結果から紹介するとともに、若者の投票率が低いことによる政治への影響を説明する。	議論が進みにくい場合は、以下のヒントを提供する。 ・投票するに当たって障害となることにはどんなことがあるだろう？ ・若い有権者の投票率が低いと、どのような政治が行われる可能性があるだろう？
4分 ～ 5分	選挙クイズ <u>7～8ページ</u> <u>参照</u>	生徒にクイズに取り組みせ（1～2分）、教員が答えと解説を発表する。	時間がない場合、教員が1題ずつ問題を読み、答えを発表しながら進める。
25分	模擬選挙	選挙公報を配付 個人ワーク（5分） ・選挙公報に記載されている各候補者の主張について、特徴や相違点を確認する。	選挙公報の作成方法を含む模擬選挙のやり方については、「私たちが拓く日本の未来(指導資料)実践編：模擬選挙(1)(2)」等を参考。

		<p>グループワーク (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人程度のグループに分かれ、誰が一番良いと思ったかを、理由と一緒に発表した上で、誰が最もふさわしいか議論する。 <p>投票 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最もふさわしいと思った候補者名を投票用紙に書き、投票箱に投票する。 <p>開票 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒2～3名と教員で開票作業を行い、結果を発表する。 	<p>グループとしての結論を出す必要はなく、自分とは異なった考え方や価値観があることを認識することに重点を置く。</p> <p>投票箱や記載台の貸出を行っている市町村選挙管理委員会もあるので、積極的に利用する。</p> <p>投票の秘密が守られるよう注意する。</p>
3分	総括	<p>教員による振り返りとまとめ。</p> <p>(例)</p> <p>実際の選挙においては、自分の投票した人が当選者になった場合も、そうでない場合も、当選者がどのような政治を行っていくのか、見続けていくことが重要。そうすることで、次の選挙における判断の材料にすることができる。</p> <p>選挙は政治に参加する重要な手段の一つ。</p> <p>誰かに任せるのではなく、積極的に選挙を通じて、日本や地域の課題について調べ、考え、自分なりに判断し、政治に参加していくことは、権利であり、国家・社会の形成者としての責務ともいえるもの。</p>	<p>最後に、補助教材は持ち帰ることも可能だが、配付した投票用紙は実際の選挙では使えないこと及び実際の投票所に持ち込んではならないことを説明。</p>